



高鍋城灯籠まつり実行委員長の天野宏昭さんにお話を伺いました

今までは出店者として灯籠まつりに参加していましたが、今回初めて運営側として関わりました。秋月種茂公の教えを受け継ぐ伝統のまつりであると同時に、皆さんに楽しんでもらえたまつりになっていれと思います。コロナ禍が続きますが、来場した方々が灯籠を見て癒されたなら幸いです。

また、こんなに大きいまつりなので、多くの方々の協力なしではとても開催できませんでした。関わってくれた皆さんに感謝でいっぱいです。



宮崎住みます芸人のチキンナンゴーによる司会進行で、太鼓演奏や保育園児による踊り、音楽ユニット・アルケミストのステージなど、さまざまなステージが披露されました。

今年の日玉は、お笑いトリオ・ジェラードンによるお笑いステージでした。昨年、高鍋町ふるさと応援大使に就任したかみちいさん、相方のアタック西本さんが会場を盛り上げました（ツッコミ担当の海野裕さんは休養中）。

また、今回初めて餃子フェスも同時開催され、多くの来場者が町内外のギョーザ食べ比べを楽しんでいました。



秋月家の四兄弟「四哲」シンポジウム

11月6日、高鍋町美術館で「秋月家の四兄弟「四哲」シンポジウム～明倫堂で学び、維新期に志をもって羽ばたいた群像・秋月家の四兄弟～」が開催され、町内外から145人が参加しました。

高鍋町の偉人や高鍋藩藩校明倫堂に焦点を当てた歴史シンポジウムは、2017年から開催しており、第4弾となる今回は秋月家の4兄弟、水筑弦太郎(みづきつたるう)・黒水長平(くろみづちょうへい)・秋月左都夫(あきづきさつお)・鈴木馬左也(すずきまさや)をテーマに行われました。



▲中学生による「明倫堂の教え」唱和



◀歴史作家・河合敦氏による特別講演「明倫堂が生んだ秋月四兄弟」

個性あふれる4兄弟や4人の父である秋月種節(あきづきたねよ)、同じく明倫堂で学んだ石井十次の生き方や教育の大切さなどについて話されました。



◀作家・秋月達郎氏による基調発言「個と公の志、自己犠牲の心を伝えてゆくこと」

自分の名誉ではなく領民を大切に考えた初代藩主・秋月種長(あきづきたねなが)が生まれたのは、高鍋という土地とそこに暮らす人々の人柄があってこそだと話されました。



◀多彩なパネリストたちによるパネルディスカッション (本町からは石川正樹氏、清水正恵氏の2名がパネリストとして参加)

武士として為さねばならぬことをした水筑弦太郎、最後まで町に残って養蚕業で町に尽くした黒水長平、亡くなる直前まで日本の未来を案じて戦争終結に尽力した秋月左都夫、第3代住友総理事として未来を見通した事業を多角的に進めた鈴木馬左也。4兄弟が選んだそれぞれの道や功績について後世に伝えることで、町民が先人から学ぶことができるのではないかといった意見が話されました。

みちはたLog

高鍋町に特化した求人サイト「みちはた」をご存じですか? 「みちはた」は、UIターンをはじめ県内外の人材と高鍋町内の企業をつなぐことを目的としたサイトです。募集要項や待遇などの情報はもちろん、職場で働く人の顔が見える求人サイトです。パソコンやスマートフォンからも気軽に求人に応募でき、現在は約20件の求人情報が掲載されています。

町内の求人情報を探している方や、求人を募集したい町内の企業のご利用をお待ちしています。



今回は、「みちはた」に掲載されていた「ホームワイド高鍋店」の求人に応募し、働き始めた中武裕子さんにお話を伺いました。

「みちはた」を利用したきっかけを教えてください。

高鍋町での仕事を探していて、「高鍋 求人」と検索して「みちはた」を見つけたので利用しました。

「みちはた」を利用してみていかがでしたか。

仕事内容が丁寧に説明されていたので、分かりやすかったです。また、写真が多く掲載されていて、仕事のイメージがしやすかったです。

実際に働き始めてからの感想を教えてください。

品出しの仕事を経験していたこともあり、すんなりと仕事に入れました。「みちはた」では仕事の大変な部分も説明してあったので、働き始めてからのギャップもありませんでした。同僚ともお互いに声を掛け合う仕事環境で、とても働きやすいです。

普段の仕事では、お客さまに商品の場所を案内した際に感謝されることにやりがいを感じます。笑顔でありがとうと言われるとやはり嬉しいですね。



↑みちはた web

!!!
高鍋町の求人情報を!!!
日々発信しています!

みちはた
高鍋でみつめる、自分らしいシゴト

みちはた 高鍋 検索

<https://www.michi-hata.jp/>